地質ニュース631号，62－67頁，2007年3月
Chishitsu News no.631, p.62－67, March, 2007

石の俗称

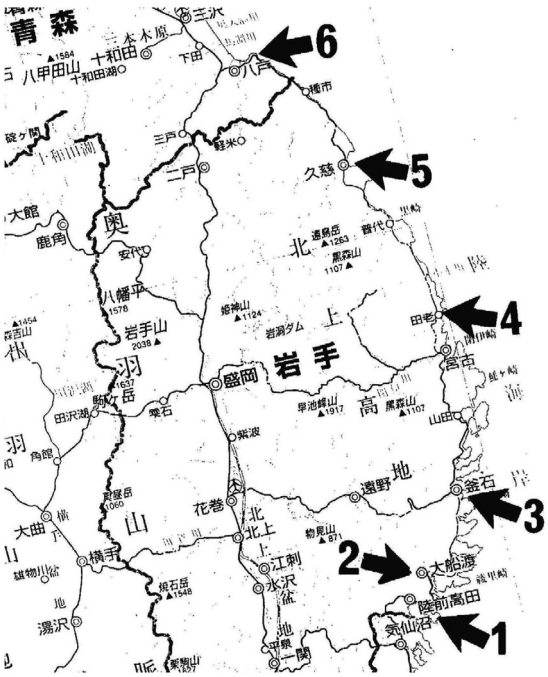
みちのく石便り（その6）
三陸海岸浜街道を行く

加　藤　碩　一[1)]

1. はじめに

今流行の町村合併とは反対に，明治元（1868）年の太政官布告によって，陸奥の国は磐城・岩代・陸前・陸中・陸奥の五つに分割されました．このうち陸前・陸中・陸奥の総称が三陸（そのまんまです）で，現在の宮城県・岩手県・青森県にまたがります．特に三陸のイメージが強いのはそのうちでも沿岸部です．そしてそこの山間部を上り下りして南北に仙台市から青森市へと縦貫するのが浜街道（明治時代以降の呼称）で，一部異なりますが現在の国道45号線にほぼ一致します．三陸地域の大部分（南の気仙沼市から北の久慈市に至る約180km）は，昭和三十（1955）年に陸中海岸国立公園に指定されています．宮古市の閉伊川を境に，南は日本有数のリアス式沈降海岸で鋸歯状の入り組んだ海岸線が続き，北は隆起性の段丘崖や岩礁が連続します．また，後述するように東北日本孤と併走するように沖合を南北に走る日本海溝は東から西へ太平洋プレートが日本列島を乗せた陸のプレート下に潜り込む部分で，活発な海溝型地震の発生地帯です．さらに，海岸部の複雑な地形と相まって遠隔地の地震を含めて津波の被害を受けやすい地域です．偶然の一致にすぎませんが，岩手県の生んだ有名な文学者であり農民であり地学者でもあった宮沢賢治は，明治三陸津波地震の年（明治二十九（1896）年）に生まれ，昭和三陸津波地震の年（昭和八（1933）年）に亡くなっています．短い人の一生で繰り返し津波に会う可能性を示唆していると言えるでしょうか．

さて，陸前・宮城県沿岸については既に本シリーズで紹介していますので（加藤, 2003），今回は主に陸中・陸奥地域沿岸部の奇岩・奇勝を御紹介しましょう（第1図）．



第1図　位置図．

2. 碁石海岸で石三昧（岩手県）

大船渡市末崎町に位置し，太平洋に突き出た末崎半島の全長約12kmに達する南東海岸は，碁石海岸と称され，陸中海岸国立公園の代表的な景勝地の一つです（第1図の1）．「日本の渚百選」にも選定されました．最寄り駅はJR大船渡線細浦駅です．海岸の名は，碁石状の黒い泥岩円礫が浜に分布することに由来します．現在，勝手に持ち去ることは禁止されてい

1）産総研 東北センター

キーワード：穴通磯，乱曝谷，雷岩，ムカデ岩，巾着岩，三貫島，三割れ岩，三王岩，琥珀，蕪島，白岩

第2図　「穴通磯」.

第3図　「乱曝谷」・「雷岩」.

ます．筆者は「もらいます」と海岸に向かって小さな声でことわってから，いくらか（数は明らかではありませんが，それほど多量ではありません）地質学的な見地からサンプルとするため採取を試みました．これは下部白亜系の大船渡層群で，唐桑半島に分布する大島層群に対比されます．海岸部は，複雑な海食景観が売りで無数の小島や断崖絶壁や洞窟をなす浸食地形は見事ですが，なんといってもその第一位は碁石海岸の代表的な景観の1つで，基部三つの穴が空いた奇岩「穴通磯（あなとおしいそ）」です．西に急傾斜した大船渡層群の砂岩頁岩互層が層理面を利用した海食で三箇所崩壊欠落し，向こう側がのぞき見える海食洞が空いているものです．岩塊上部の松の木々と相まってなんとも言い難い風情です．波の音と松籟（松風の音）を聞きながらしばし足を止める価値があります．

穴通磯から道路に戻り南に松林を抜けて断崖から見下ろす位置にあるのが「乱曝谷（らんぼうや）」と称される浸食地形です．「雷岩」を始めとして海食洞窟に押し寄せる波濤によって圧縮された空気が逃げ出すときに引き起こす轟音は，「潮吹き岩」などのそれと同類ですが，これは国の「残したい日本の音風景百選」の一つに選ばれたほどです．雷のようなといわれる音で，なかなか圧巻です．碁石海岸の途中に北緯39°00′00″，東経141°44′30″を示す木製の碑が建っています．北緯39°線を西にたどると，平泉中尊寺近くを通り，日本海側の酒田市北方に達します．更に行くと北朝鮮平壌を通り，中国では，旅大（大連），天津近傍を通過し，タリム盆地に抜けていくのです．どうという意味はありませんが．ぴったり北緯39°というのが売りなのです．

第4図　「ムカデ岩」.

これらのほかにも，碁石海岸にはいろいろな俗称の石があります．細長く走向方向に海に突き出したのは「ムカデ岩」と呼ばれています．節理が発達した細長い砂岩頁岩互層の浸食形状が何となくと言うことでしょうが，もちろん足はありません．あしからず．

同じ岩質でも，地層の走向傾斜などが異なると別の浸食形状を示すことがあります．写真のように丸っこく，こじんまりした形状の小島が，「巾着岩」です．「穴通磯」から「乱曝谷」へ行く途中の沖合に見られます．「巾着」というのは，今では死語になっているかと思いますのであえて説明しますと，口部に締め紐のついた布や皮でできた，いわば腰に下げる昔の財布です．ちょうどそんな格好をしています．権力者にすりよってそのそばを離れない人を「腰巾着」といい，「巾着切り」は「スリ」のことですが，むろん筆者のことでもなく，これをお読みの大部分の読者の方のことでもありません．気にしないで下さい．また，「巾着頭」と

第5図　「巾着岩」.

いう言い方があります．頭の形が巾着形というわけです．気仙地方の俗信に「きんちゃく頭の人は，よい頭である」と言います．いかがでしょう．

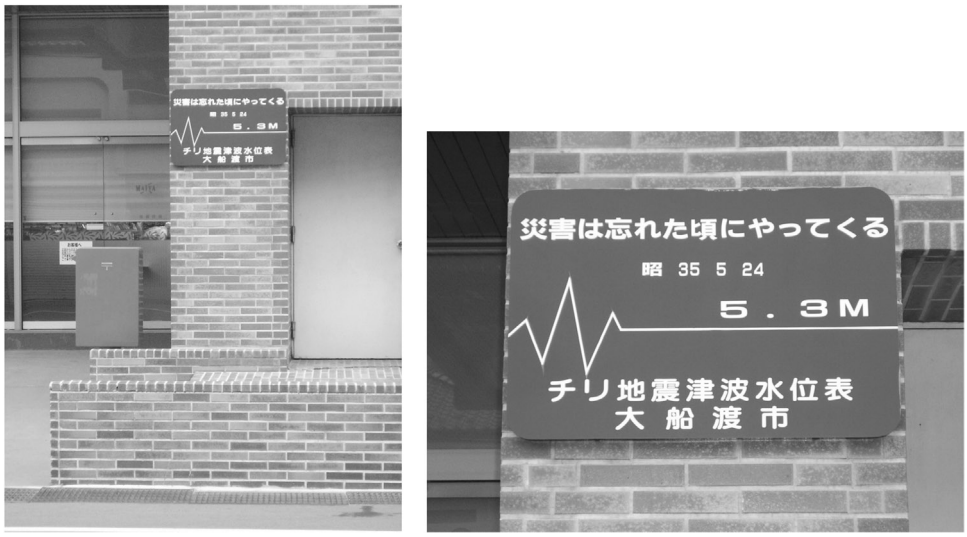
岩手県沿岸の島はすべて無人島です．碁石岬沿岸域で，最も大きい岩塊は「千代島」です（南北200m，東西80m，高さ26m）．古くは「経島」とも呼ばれたそうで，周辺海域での海難者の冥福を祈るためお経を刻んだ「一字一石」を祀ったと言われます．

さて，前述したように三陸海岸域は，たびたび津波の被害に見舞われています．末崎半島の属する大船渡市も例外ではありません（第1図の2）．とくに同市三陸町綾里（りょうり）は明治三陸津波で高さ38.2mもの津波に襲われました．街中の至る所に津波被害の様子や避難誘導の標識が掲げられています．筆者が泊まった某日曜日にも朝の6時から避難訓練のためのサイレンが鳴らされ飛び起きました．「まさに災害は忘れた頃にやってくる」を想定しての訓練です．心したいものです．

3. 今は昔の鉄の町「釜石」と石（岩手県）

岩手県南東端に位置する釜石市は製鉄で有名だった産業都市です（第1図の3）．釜石駅から東に進むと海岸沿いに国道45号線がほぼ南北に縦貫しており，陸中海岸初という双胴型高速観光船「はまゆり号」の発着場に行き着きます．これで釜石湾内を周遊できます．岩手県釜石市北東部沖合に浮かぶ三貫島（さんがんじま）は，周囲約4kmの無人島で，国指定の天然記念物であるオオミズナギドリとヒメクロウミツバメの繁殖地のため上陸が禁止されています．実はこの島は，団塊世代にはなつかしい往年のTV人気番組であった人形劇「ヒョッコリヒョウタン島」のモデル？ だそうです．今はなにかと評判の悪いNHKですが，当時は良い子供番組を作っていました．（二畳紀～）三畳紀の釜石層のチャートと頁岩やその互層からなっています．浸食の違いから凸凹している様が横から遠望できますが，なんとなくヒョッコリヒョウタン島に似ていますかね．

ところが，瀬戸内海にも「ひょうたん島」があるので



第6図　「大船渡市の津波災害表示」（左図：遠景，右図：近景）.

第7図　「三貫島」（ひょっこりひょうたん島）.

第8図　「三割れ岩」.

す．愛媛県に属する「大三島」のすぐ東隣にある小さな島で島の形はまさに瓢箪状です．白亜紀の広島花崗岩に属する粗粒黒雲母花崗岩からなります．観光パンフレットには『人形劇『ひょっこりひょうたん島』のモデルとなったと言われるひょうたん島』とうたっています．ここにも本家元祖争いがあります．いやはやなんとも．

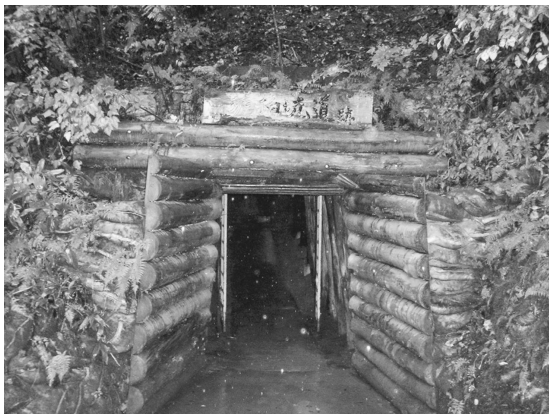
「三割れ岩」は，互層の層理面が明瞭です．3つに大きく割れていることから命名されたのでしょうが，地層のずれが遠望できるので，それらの境は断層かも知れません．後述する「三王岩」と同工異曲です．

4.「不思議の国の北リアス」と石（岩手県）

宮古から久慈の間を三陸鉄道北リアス線が連絡しています．電車の一部は最新式（？）のレトロ車で，遊園地のものよりややましな作りの観光客ねらいの懐古趣味が横溢している代物です．その様子は平家物語の表現を借りれば『心も言葉もおよばれね』なので，筆者の拙い筆では表現しきれませんが試しに一度乗ってみてください．途中の鉄橋の上でしばし停車して峡谷を堪能できるとかのヨーロッパの鉄道の猿まねサービスがあります．一瞬故障かなと不安にかられます．あげくに落ち葉と天候により車輪が空転するため遅れて申し訳ありませんとのアナウンスがありました．たいした峡谷でもないところで止めないでさっさと進行させろと言いたくなります．各駅の看板やパンフレットなどいたるところに「不思議の国の北リアス」という駄洒落キャッチコピーが氾濫しています．言うまでもなく，駄目押ししておきますとルイス・キャロルの名作「不思議の国のアリス」のアナグラムもどきです．おまけに各駅ごとにそれなりに工夫をこらしたつもりなのでしょうが，後述するようなキャッチフレーズがつくのです．もはや何とも言いようがありません．気を取り直して宮古から沿岸を北上していきます．まず，田老駅です（第1図の4）．この駅のキャッチフレーズは「銀色のしぶき」です．ああ，そうですか．ここは「津波田老」の異名があるほど津波の町として知られ，歴史記録としては貞観年間（859～877）から30数回の津波被害を受けたことがわかっています．駅から昭和三十三年（1958）に完成した高さ約10mの津波対策で張り巡らされた防潮堤をくぐり，田老港を回って海岸沿いを20分ほど行くと，有名な「三王岩」につきます．

「三王岩」の真ん中が高さ約50mの「男岩」，海に向かって左側の三角形状の岩塊が「女岩」，右側の短躯な塊状の岩塊が「太鼓岩」です．「男岩」の下部は中礫～大礫からなる礫岩で上半部は砂岩泥岩互層です．「女岩」も砂岩泥岩互層が主で，ともに緩傾斜を呈した露岩です．「男岩」と「女岩」を合わせて「夫婦岩」とも称されています．これらに対して「太鼓岩」は，層理面が垂直になっていて転石塊のようです．陸側は北上山地に散在する白亜紀深成岩類の1つである田老岩体で，ゼノリス（捕獲岩）を多く含む花崗閃緑岩が分布しており，その上に不整合で「山王岩」を構成する下部白亜系上部の宮古層群が載っているわけです．干潮時には，男岩まで行けて，その根元の径2mほどの海食洞をくぐることができます．そうすると幸運が訪れるとか，恋愛が成就するとか言い伝えられています．この他，田老港から舟で真崎に向かって外

第9図　「三王岩」.



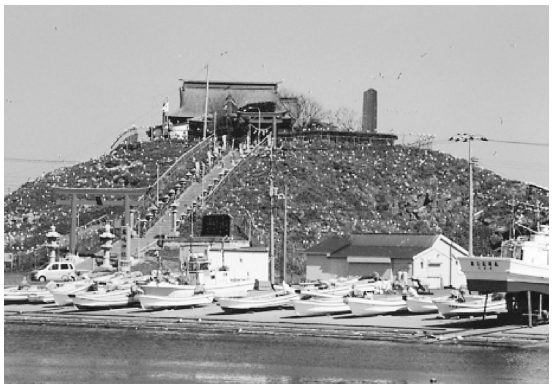
第11図　「琥珀坑道入り口」.

第10図　「男岩」根元の海食洞.

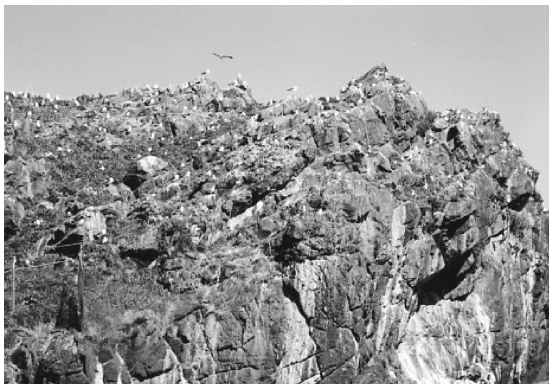
第12図　「坑道壁面に見られる琥珀産出層」.

洋に出るとすぐに「畳岩」と称される絶壁があります．宮古層群の砂岩の緩やかに傾斜した層理面が畳のような平面をなし，一方海に面してはほぼ垂直な絶壁をなしているのです．なかなかの迫力です．

田老駅から更に北上して行くと，海岸沿いには様々な断崖絶壁が断続し，「熊の鼻」「鵜の巣断崖」「北山崎」「黒崎」「大釜崎」「赤平金剛」と枚挙にいとまがないほどです．南リアス海岸と異なる男性的な特徴ある地形を呈しています．そのうち「ハマユリ咲く　普代」駅（ああ，そうですかのキャッチフレーズ）を通過して終点久慈駅に到着します．岩手県最北端に位置する久慈市は，「柔道の神様」とまで称された三船久藏十段の出身地でもありますが，琥珀の産出でも世界的に有名です（第1図の5）．琥珀は鉱物でなく樹脂の化石です．この付近には，主に砂岩・礫岩などの砕屑岩類からなる上部白亜系久慈層群（下位から整合に玉川層と国丹（くにたん）層・沢山層）と上方細粒化する古第三系（漸新世）の野田層群が分布し，琥珀は主に前者の玉川層と国丹層から産出します．ついでに説明しますと「上方細粒化」とは，堆積物の構成粒子が上方に向かって細かくなっていくことです．つまり，礫岩→砂岩→泥岩→炭層という堆積サイクルです．これは，海面上昇ないし堆積盆の沈降を意味します．野田層群には，こうした堆積サイクルが4回知られており，つまり少なくとも相対的に海が深くなる地質的イベントが4回繰り返されたことになります．特に，第2サイクルの炭層に伴う粘土層から久慈焼きの原料となっているカオリンが産出します．さて，現在世界で産出する琥珀の大部分が新生代第三紀のものですが，久慈の琥珀は中生代白亜紀後期（ここでは約8,500万～9,000万年前）のもので，それらより古いのが特徴の1つです．久慈琥珀館で，種々の琥珀を見たり琥珀を用いた種々の体験をしたりすることができます．またここには，写真のように看板に世界唯一



第13図　「蕪島遠景」.



第14図　「蕪島露頭」.

と説明がある琥珀採掘坑道跡があり見学することができます.

5. 宮澤賢治も訪れた八戸～蕪島（青森県）

久慈駅からJR八戸線に乗り換えて青森県に入りその終点が八戸駅です. 岩手県北部から青森県南部にかけてあった中世の行政区画「糠部郡」の集落地名「一戸」～「九戸」の1つが「八戸」なのです. 縄文時代の遺跡から奈良平安時代の遺跡も多く残されており, いにしえから地域の拠点であったようです. 紆余曲折あって寛文四年（1664）南部直房を初代藩主とする八戸藩二万石が誕生し, その後の八戸発展の契機となりました. 現在東北新幹線の北の終点であることは言うまでもありません.

かの宮本賢治が, 大正十五年（1926）八月に妹らと八戸～鮫～蕪島～種差海岸へ小旅行しています. 鮫駅から蕪島周辺の風景を『文語詩未定稿』の1つである「八戸」冒頭で「さやかなる夏の衣して　ひとびとは汽車を待てども　疾みはてしわれはさびしく　琥珀もて客を待つめり」, 最終連では「そのかみもうなゐなりし日　ここにして琥珀うりしを　ああいまはうなゐとなりて　かのひとに行かんすべなし」と歌っています. 久慈産の琥珀でも売っていたのでしょうか. ちなみに彼は前年の一月には東北陸中を訪れており, このとき久慈に行った可能性が高いのですが.

八戸駅から東へJR久慈線で進み, 鮫駅で下車すると歩いてほどなく蕪島に行けます（第6図の6）. ここは大正十一年（1922）に国の天然記念物に指定されたカモメ科の海鳥であるウミネコの繁殖地です. 八戸小唄に「けむる波止場に舟つく頃にゃ　白い翼を夕日に染めて　島のうみねこ誰を待つ」とあります. 誰を待つあてもない筆者には小うるさいだけの猫に似ているとかの鳴き声が『日本の音風景百選』に選ばれたのは人生同様不可解なことです. それだけでなく繁殖期には無数に集まってきたウミネコによって文字通り蕪島には白い糞が雨あられと降りかかります. 神社の狛犬も白犬と化します. 傘がないと近寄れません. ここを起点として南東への約12kmの海岸線は, 名勝県立自然公園・日本の白砂青松100選の1つでもある「種差海岸」です. 源義経が平泉の戦以降も生きのびて北へ逃げたとする「義経北行伝説」では, 久慈から舟でこの海岸に上陸しその後八戸で数年間過ごしたそうです.

ここの岩石は, 前期白亜紀初期の原地山層のデイサイト～流紋岩溶岩及び火砕岩です. 白っぽく縦に帯状に見える部分はウミネコの糞が流れたものです. 「白岩」というのもあります. ご想像のようにウミネコの糞だらけの岩塊ですが, 遠くから眺めればそれなりにみな美しいものです.

主　要　文　献

加藤碩一（2003）：みちのく石便り（その1）. 地質ニュース, no.588, 61-69.

KATO Hirokazu（2007）：Popular named stones/rocks in Tohoku District, Northeast（6）.

＜受付：2006年10月19日＞